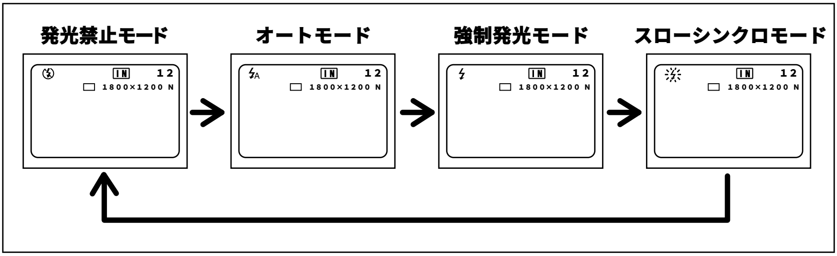
応用撮影 第3章

フラッシュモードの変更

ここではフラッシュモードの変更のしかたについて説明します。撮影状況に合わせてモードを切り替えてお使いください。

■モード表示の 移り変わり

フラッシュモードを切り替えると、モード表示は次のように表示されます。



＊初期設定は、発光禁止モードになっています。

●発光禁止モード

暗いところでもフラッシュは発光しません。フラッシュ撮影が禁止されているところで撮影するときや、室内の照明を利用して撮影したいときに使用します。

●オートモード

暗い場所や逆光のときに、自動的にフラッシュを発光します。

●強制発光モード

逆光や強い光の下で人物を撮影すると、顔に強い影ができることがあります。このような影をやわらげたいときに、このモードを使用します。明るさに関係なく、常にフラッシュが発光します。

●スローシンクロモード

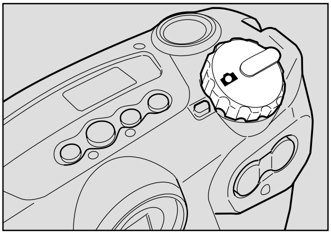
フラッシュを発光して撮影する際、被写体にフラッシュの光があたり、背景も遅いシャッタースピードで撮影できます。室内パーティーなどの撮影で、背景の雰囲気を活かして被写体をきれいに撮影したいときに使用すると、フラッシュを発光させたときに、背景だけが暗くなるのを軽減します。

フラッシュの光が届く距離

フラッシュを発光させて撮影する場合、撮影距離は望遠で約 0.4 ～ 3.0m、広角で約 0.4 ～ 3.4m です。被写体にフラッシュの光が届かないと、被写体が暗く撮影されます。

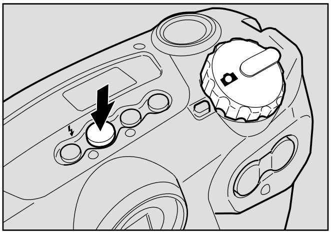
フラッシュモードを変更する

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせます。

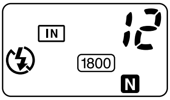


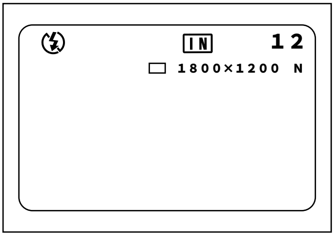
❷ フラッシュボタンを押して、フラッシュモード（⚡̸・⚡A ・⚡ 点灯・⚡ 点滅）を選びます。

フラッシュボタンを押すごとに、フラッシュモードが切り替わります。



液晶パネルや液晶モニターにフラッシュモードが表示されます。ただし、オートモードの場合は、液晶モニターにのみ⚡Aマークが表示されます。液晶パネルにはマークは表示されません。





❸ シャッターボタンを押して撮影します。

補足
・フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを軽く押したときにフラッシュランプ（赤）が点灯します。
・フラッシュ充電中はフラッシュランプが点滅し、液晶モニターの表示が消えます。このときは撮影できません。

モードを解除するには

フラッシュボタンを押して、他のモードに切り替えます。

重要

・近い被写体（約40cm以下）をフラッシュ撮影すると、フラッシュの光が赤く写ることがあります。また、露出オーバーになるため、被写体が白っぽく撮影されることがあります。このようなときは、発光禁止モードに設定してください。
・暗いところでは自動的にシャッタースピードが遅くなります。カメラブレが起きないようにしっかり構えるか、三脚を使用して撮影してください。特に望遠側（[♠]）では、カメラブレにご注意ください。

補足

・記録モードが文字モードのときは、フラッシュは発光しません。
・ホワイトバランスモードが屋外モード、曇天モード、白熱灯モード、蛍光灯モードのときは、フラッシュは発光しません。
・フラッシュモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.102「カメラの設定内容を記憶する」
・フラッシュを利用して撮影するとき、液晶モニターが暗く見える場合は、広角側で撮影してください。望遠側ではピントが合いにくいことがあります。
・赤目モードを利用すると、赤目を軽減して撮影できます。→P.64「赤目モードで撮影する」

露出補正の設定

通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動で逆光補正を行うので、このまま撮影することができます。しかし、背景と被写体との間に極端な明暗差がある場合、被写体の露出がアンダー（暗い）やオーバー（白っぽい）になってしまいます。このようなときに露出補正をします。また、意図的に露出アンダーやオーバーな撮影をしたいときにも使用できます。

●露出補正の範囲

± 2.0EV（0.5EV ステップで設定）

●逆光撮影の場合

背景が明るいので、被写体は露出アンダーになってしまいます。このようなときは＋側に数値を増やして、露出を補正します。

重要
・逆光のとき、撮影範囲の中央に被写体がないときには、カメラは逆光状態と判断しません。露出補正をしてください。

●白っぽい画面を写す場合

全体に白っぽい画面を写すときは、全体的に露出アンダーになり、人物などは暗く、白いものはグレーのように写ってしまいます。このようなときは＋側に数値を増やして、露出を補正します。

●黒っぽい画面を写す場合

全体に黒っぽい画面を写すときは、全体的に露出オーバーになり、人物などは白く、黒いものはグレーのように写ってしまいます。このようなときは－側に数値を増やして、露出を補正します。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様にします。

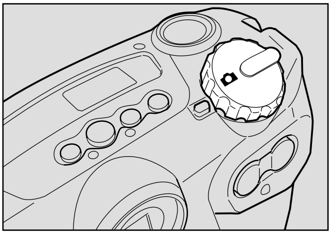
露出補正を設定する

露出補正を設定します。

❶ モードダイヤルを [📷] に合わせ、MENU ボタンを押します。

記録メニューが表示されます。

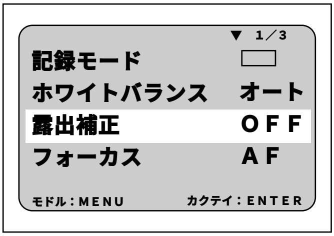
補足
・ 操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。



3
応用撮影

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［露出補正］を選び、ENTERボタンを押します。

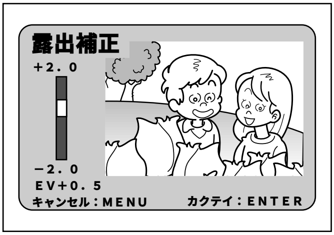
設定メニューが表示されます。



補足 ・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。記録メニューに戻ります。

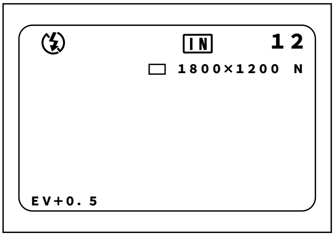
❸ ▼ボタンや▲ボタンを押して、補正値を変更します。

▲（[ ]）ボタンを押すと数値が進み、▼（[ ]）ボタンを押すと数値が戻ります。ボタンを押し続けると早く動きます。



❹ シャッターボタンを押して撮影します。

シャッターボタンを軽く押すと（半押し状態）、通常の表示に変わります。シャッターボタンを押しきり撮影します。



撮影が終了すると設定メニューに戻ります。変更した補正値を確定する場合は、ENTERボタンを押して操作を終了します。キャンセルする場合は、MENUボタンを押して記録メニューに戻り、再びMENUボタンを押して記録メニューを終了します。

設定を解除するには

同様の操作を行い、手順❸で補正値を［± 0.0］にします。

補足 ・露出補正の設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.102「カメラの設定内容を記憶する」

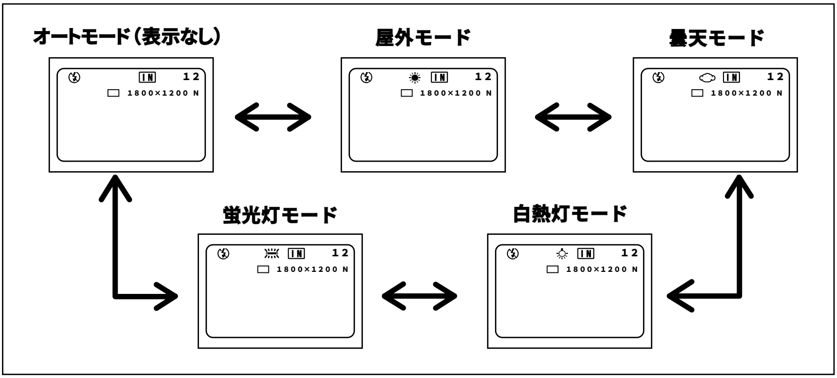
・設定した補正値を基準に-0.5EV、0、+0.5EVの補正値で、連続して3コマ撮影できます。設定した補正値の確認に便利です。→P.70「オートブラケット撮影のしかた」

ホワイトバランスモードの変更

ホワイトバランスモードは、どんな光源の下でも自然の色合いで撮影できるようホワイトバランスを調整する機能です。通常はオートモードで撮影します。オートモードのときは、どんな光源の下でも白いものを白く撮影するよう、白色系の部分を基準にホワイトバランスを自動的に調整しています。そのため、被写体に白色系の部分が少ない場合や暗い場合は、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときに、ホワイトバランスモードを変更して撮影してください。

■モード表示の移り変わり

ホワイトバランスモードを切り替えると、モード表示は次のように表示されます。



＊初期設定は、オートモードになっています。

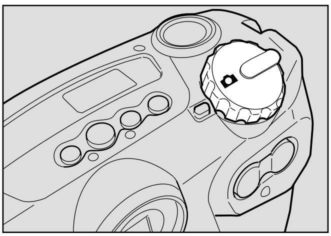
オートホワイトバランスの苦手な被写体

・単一色な被写体
・複数の光源のある被写体

ホワイトバランスモードを変更する

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENUボタンを押します。

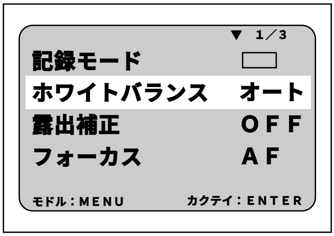
記録メニューが表示されます。



補足 ・操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［ホワイトバランス］を選び、ENTERボタンを押します。

設定メニューが表示されます。



補足 ・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。記録メニューに戻ります。

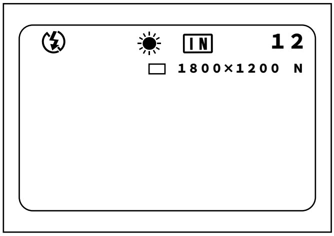
❸ ▼ボタンや▲ボタンを押して、ホワイトバランスモード（☀•☁•☼•≡）を選びます。



❹ シャッターボタンを押して撮影します。

シャッターボタンを軽く押すと（半押し状態）、通常の表示に変わります。シャッターボタンを押しきり撮影します。

撮影が終了すると設定メニューに戻ります。設定したモードを確定する場合は、ENTERボタンを押して操作を終了します。キャンセルする場合は、MENUボタンを押して記録メニューに戻り、再びMENUボタンを押して記録メニューを終了します。



重要 ・同じ被写体を撮影しても、天候や光源（白熱灯や蛍光灯）の種類により色の度合いが異なります。

モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸のホワイトバランスで［オート］を選びます。

補足
- ・オートモードの場合、被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- ・ホワイトバランスモードは、記録モード時のみ設定できます。再生モードでは設定できません。
- ・屋外モード、曇天モード、白熱灯モード、蛍光灯モードのときは、フラッシュは発光しません。
- ・ホワイトバランスモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.102「カメラの設定内容を記憶する」

いろいろな撮影機能

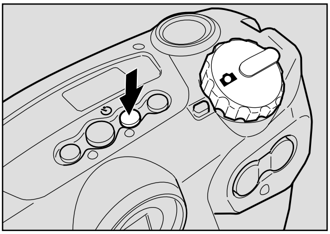
このカメラは、基本的な撮影のほかにモードを設定することによって、いろいろな撮影ができます。

セルフタイマーを使って撮影する

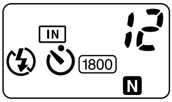
撮影者自身も入った記念撮影などを行うときにセルフタイマーを使用すると便利です。カメラを三脚や水平な台の上に固定して撮影してください。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、セルフタイマーボタンを押します。

セルフタイマーが設定されます。

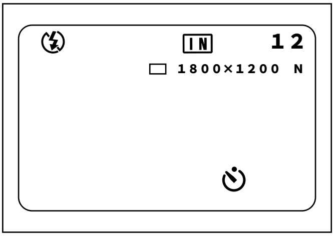


液晶パネルや液晶モニターにセルフタイマーが表示されます。



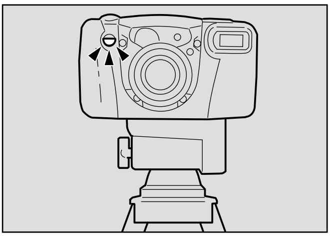
モードを解除するには

再びセルフタイマーボタンを押すか、電源スイッチを押します。



❷ 構図を決め、カメラを固定したら、シャッターボタンを押します。

セルフタイマーランプが点灯し、セルフタイマーがスタートします。約10秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる約2秒前からセルフタイマーランプが点滅に変わり、「ピピピピッ」というブザー音が鳴ります。
シャッターが切れると、モードが解除されます。



補足
・フラッシュが充電中のときは、充電が完了してからセルフタイマー撮影を開始します。
・シャッターボタンを押した時点でピントは固定されます。

3
応用撮影

> **コラム** **遠隔操作について**
> 離れた位置や固定した位置にカメラを設置してお使いになるときは、リモートコントローラー（別売り）と組み合わせてお使いください。

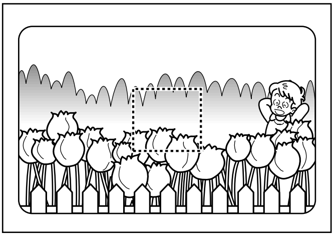
フォーカスロックで撮影する

通常は、ファインダーや液晶モニターのオートフォーカス範囲に見える被写体にピントが合います。ピントを合わせたい被写体がこの条件に合わない場合、その被写体にはピントが合わずボケてしまうことがあります。写したいものに確実にピントを合わせたいときは、フォーカスロックで撮影します。

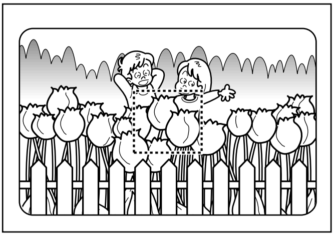
参照 P.45「被写体の位置を確認する」

■このようなときにお使いください

ピントを合わせたい被写体が、オートフォーカス範囲にないときは、背景にピントが合い、人物はボケてしまいます。

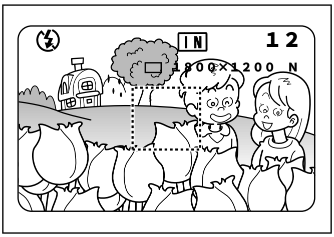


ピントを合わせたい被写体以外のものが、オートフォーカス範囲のほとんどを占めるときは、花にピントが合い、人物はボケてしまいます。

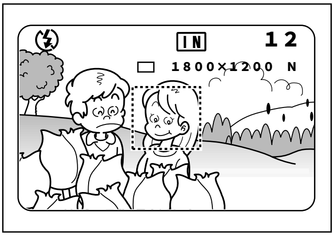


■撮影のしかた

❶ ▲（[ ]）ボタンや▼（[ ]）ボタンを押して、被写体の大きさを決めます。

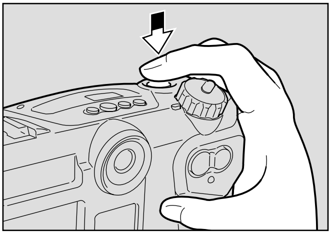


❷ **ピントを合わせたい被写体に、オートフォーカス範囲を合わせます。**

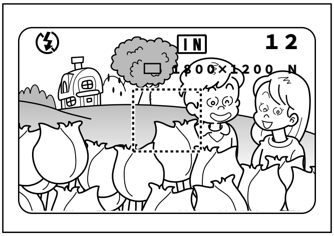


❸ **シャッターボタンを軽く押して、指をその位置で止めます。**

この時点でピントが固定され、オートフォーカスランプ（緑）が点灯します。



❹ **指を止めたままカメラを動かして構図を決め、シャッターボタンを静かに押しきります。**



補足 ・スナップ写真や風景など、条件に合わせたピント合わせで撮影（マニュアルフォーカス）することもできます。→P.61「フォーカスモードで撮影する」

フォーカスモードで撮影する

このカメラでは、3種類（AF・MF・SP🌷）のフォーカス撮影ができます。スナップ写真や風景など、撮影条件に応じたピント合わせが行えます。

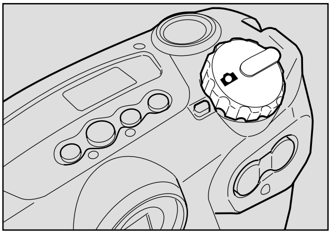
AF　：カメラが自動でピントを合わせます。

MF　：手動でピントを合わせながら撮影します。

SP🌷：広角時で、通常のマクロ撮影より被写体をより大きく撮影するときに使用します。（撮影距離 =4 〜 40cm）

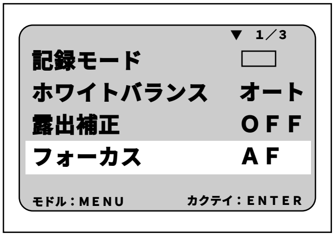
❶ モードダイヤルを[📷]に合わせ、MENUボタンを押します。

記録メニューが表示されます。

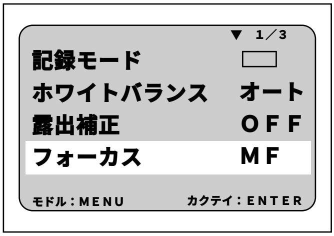


〈補足〉・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［フォーカス］を選びます。



❸ ENTERボタンを押してフォーカスの種類（AF・MF・SP🌷）を選び、MENUボタンを押します。

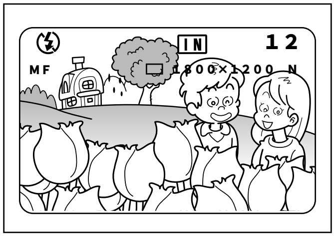


❹ 被写体の大きさを決めます。

MFのときは、シャッターボタンを軽く押しながら（半押し状態）▲（[⛰]）ボタンや▼（[🌷]）ボタンを押します。SP🌷では使用できません。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。

MFの場合は、▲ボタンや▼ボタンでピントを合わせ、シャッターボタンを押して撮影します。



モードを解除するには

同様の操作を行い、他のモードに切り替えます。

〈補足〉
・フォーカス撮影の設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.102「カメラの設定内容を記憶する」
・フォーカスモードがAFの場合、暗いところの撮影では、オートフォーカスランプや液晶モニターにフォーカス表示（SP🌷）が点滅し、点滅しているモードにピントが固定されます。被写体からの距離を調節するか、MFでピントを合わせて撮影してください。

日付を入れて撮影する

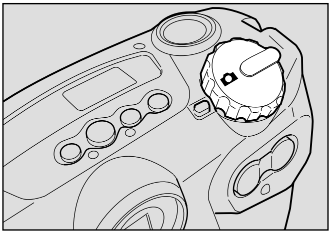
日付を入れて撮影するときに使用します。

補足 ・SET UP メニューで日付を設定していない場合は、機能しません。日付を設定してください。また、日付の表示形式は、日付設定で選択した表示形式になります。→ P.34「日付・時刻を合わせる」

❶ **モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENU ボタンを押します。**

記録メニューが表示されます。

補足 ・ 操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。



❷ **▼ボタンや▲ボタンを押して［日付入れ撮影］を選びます。**

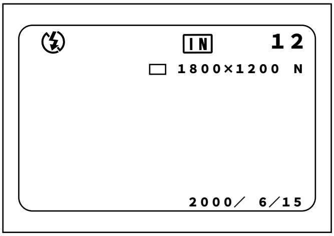


❸ **ENTER ボタンを押して日付の種類（日付・日時）を選び、MENU ボタンを押します。**

日付のときは年月日（2000/6/15）を、日時のときは年月日と時刻（2000/6/15 10：15）が表示されます。



❹ **シャッターボタンを押して撮影します。**



モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸の日付入れ撮影で［OFF］を選びます。

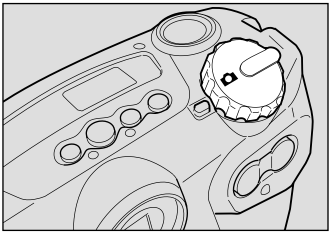
補足 ・日付入れ撮影の設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.102「カメラの設定内容を記憶する」

赤目モードで撮影する

暗いところでフラッシュが発光したとき、目が赤く写ることがあります。この現象を「赤目」といいます。赤目を軽減したいときに、このモードを使用します。シャッターが切れる前にフラッシュが数回発光し、これにより赤目が軽減されます。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENUボタンを押します。

記録メニューが表示されます。



補足 ・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して、👁マークを選びます。

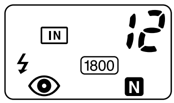


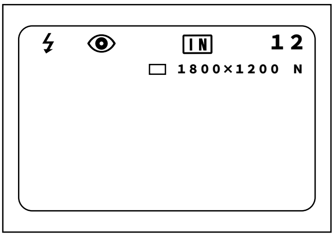
❸ ENTERボタンを押して［ON］を選び、MENUボタンを押します。



❹ シャッターボタンを押して撮影します。

シャッターボタンを押すと、フラッシュが数回連続して予備発光したあと、本発光してシャッターが切れます。





重要 ・シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまで、約1秒かかります。カメラをしっかりと構えて撮影してください。

モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸の赤目モードで［OFF］を選びます。

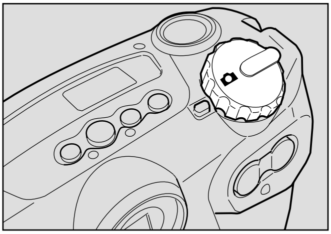
補足 ・赤目モードは、フラッシュ発光禁止のときは使用できません。

モノトーンモードで撮影する

モノクロまたはセピアで撮影します。

❶ モードダイヤルを[📷]に合わせ、MENUボタンを押します。

記録メニューが表示されます。



補足 ・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［モノトーンモード］を選びます。

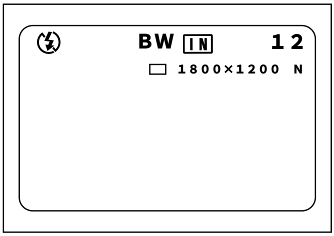


❸ ENTERボタンを押してモノトーンモード（B&W・SE）を選び、MENUボタンを押します。

モノクロで撮影するときは[B&W]、セピアで撮影するときは［SE］を選びます。



❹ シャッターボタンを押して撮影します。



補足 ・モノトーンモードを選択すると、ホワイトバランスモードは機能しません。

モードを解除するには

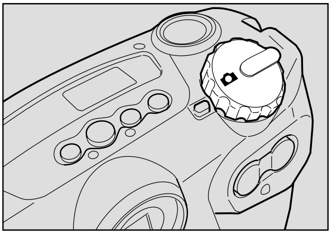
同様の操作を行い、手順❸のモノトーンモードで［OFF］を選びます。

インターバル撮影のしかた

設定した時間間隔で自動的に撮影します。時間間隔は30秒～3時間00分00秒の範囲で、30秒間隔で設定します。
例えば、時間間隔を1時間に設定すると、1時間ごとにシャッターが切れ、記録先の内蔵メモリーまたはスマートメディアの容量がなくなるまで連続して撮影します。

重要
- インターバル撮影を行う際、スマートメディアや内蔵メモリーの撮影可能枚数を確認してから設定してください。
- インターバル撮影開始後、24時間でオートパワーオフが働きます（ACアダプター使用時も同様）。

❶ モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENUボタンを押します。



記録メニューが表示されます。

補足
- 操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。

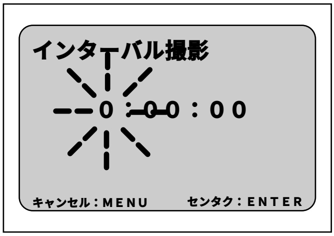
❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［インターバル撮影］を選び、ENTERボタンを押します。



設定メニューが表示されます。

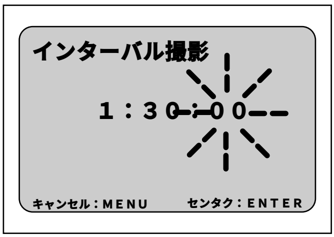
補足
- 操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。記録メニューに戻ります。

❸ ENTERボタンを押して、設定したい部分を点滅させます。



補足
- ENTERボタンを押すたびに、時間→分→秒の順番で点滅します。

❹ ▼ボタンや▲ボタンを押して、点滅している数字を変更します。



▲（[ ]）ボタンを押すと数字が進み、▼（[ ]）ボタンを押すと数字が戻ります。ボタンを押し続けると早く動きます。
手順❸、❹の操作を繰り返して、必要な部分を設定します。30秒間隔で設定できます。

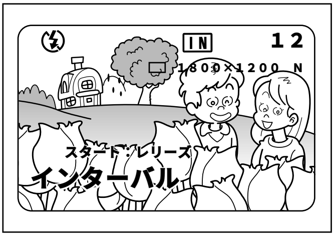
❺ **秒を合わせたあと、もう一度 ENTER ボタンを押します。**

インターバルタイマーが設定され、記録メニューに戻ります。



❻ **MENU ボタンを押します。**

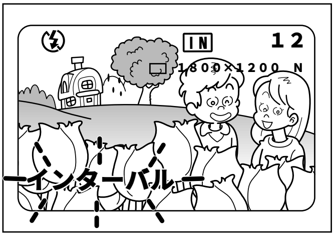
記録メニューが終了し、通常の画面に戻ります。画面には「インターバル」の文字が点灯します。



❼ **レリーズ（シャッター）ボタンを押します。**

最初の１枚が撮影され、これ以降、設定した時間間隔で撮影されます。撮影を開始するとフォーカスロックされますので、カメラを設定した場所から動かさないでください。

インターバル撮影中は、「インターバル」の文字が点滅します。内蔵メモリーまたはスマートメディアの容量がなくなると、撮影を終了します。



補足
・インターバル撮影中は、レリーズ（シャッター）ボタンを押すと通常の撮影ができます。設定した時間間隔はずれません。
・画質モードやフラッシュモードの設定によっては、設定した時間より撮影間隔が長くなる場合があります。
・電池を使用した撮影では、インターバル撮影の途中で電池切れになってしまうことがあります。AC アダプター（別売り）を使用して撮影してください。

設定を解除するには

「インターバル」が点灯しているときは、次のいずれかの方法で設定を解除できます。

・同様の操作を行い、インターバルタイマーを［0:00:00］にします。
・電源スイッチを押します。
・モードダイヤルを回して、他のモードに切り替えます。

撮影を中止するとき

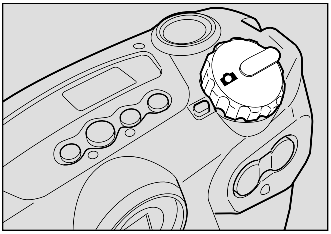
インターバルタイマー撮影を行っている間は、「インターバル」が点滅します。次のいずれかの方法で撮影を中止できます。
・電源スイッチを押して電源を切ります。
・モードダイヤルを回して、他のモードに切り替えます。

ソフトモード撮影のしかた

人物の顔や空、壁などの平面的な撮影で、輪郭をなめらかにして撮影します。

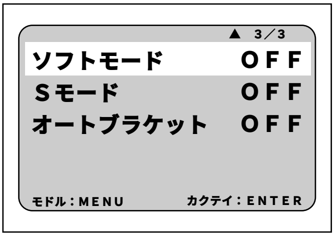
❶ モードダイヤルを [📷] に合わせ、MENU ボタンを押します。

記録メニューが表示されます。

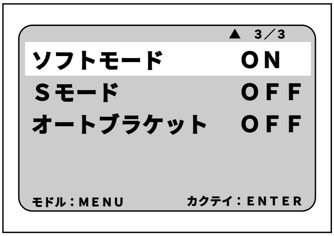


補足 ・操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［ソフトモード］を選びます。



❸ ENTER ボタンを押して［ON］を選び、MENU ボタンを押します。



❹ シャッターボタンを押して撮影します。

モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸のソフトモードで［OFF］を選びます。

補足 ・ソフトモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.102「カメラの設定内容を記憶する」

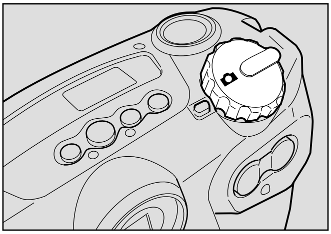
Sモード撮影のしかた

暗いときにシャッタースピードを速くするモードです。暗い被写体に向けてシャッターボタンを軽く押したとき、液晶モニターに「スローシャッター」と表示された場合に利用すると、カメラブレを軽減する効果があります。

重要　・Sモードで撮影したファイルは、多少ノイズが入る場合があります。

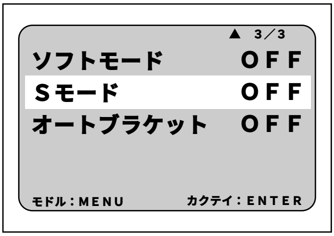
❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENUボタンを押します。

記録メニューが表示されます。



補足　・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［Sモード］を選びます。

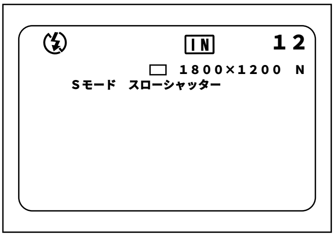


❸ ENTERボタンを押して［ON］を選び、MENUボタンを押します。



❹ シャッターボタンを押して撮影します。

被写体の明るさによって、Sモードで撮影するかどうかカメラが自動的に判断します。シャッターボタンを軽く押し、「Sモード スローシャッター」と表示されたときは、Sモード撮影になります。



補足　・シャッターボタンを押したあと、「ピッ」というブザー音が鳴る前にカメラを動かすと、手ブレすることがあります。

モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸のＳモードで［OFF］を選びます。

補足
・Ｓモードは、フラッシュ発光禁止のときのみ機能します。
・Ｓモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。
→ P.102「カメラの設定内容を記憶する」

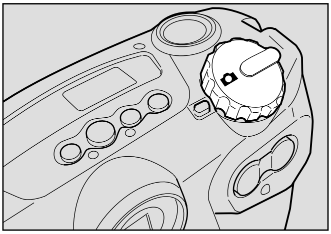
オートブラケット撮影のしかた

「露出補正の設定（P.55）」で設定した補正値を基準に、-0.5EV、0、+0.5EV の補正値で３コマ連続して撮影します。露出補正の確認に便利です。
手ブレしないようカメラを三脚や水平な台の上に固定して撮影してください。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENU ボタンを押します。

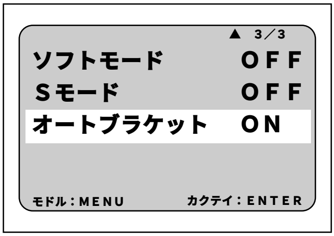
記録メニューが表示されます。

補足
・操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。



❷ ▼ボタンや▲ボタンを押し、［オートブラケット］が［ON］になっていることを確認します。

［OFF］のときは、ENTERボタンを押して［ON］を選び、MENU ボタンを押します。



❸ シャッターボタンを押して撮影します。

シャッターボタンを押すと、設定された露出補正値を基準に、-0.5EV、0、+0.5EV で３コマ連続撮影されます。

モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸のオートブラケットで［OFF］を選びます。

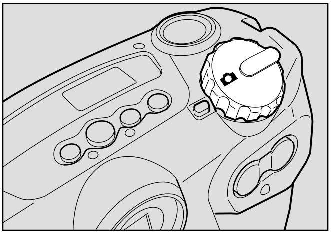
補足
・オートブラケット設定時は、次の機能は利用できません。
記録モード：速写モード
画質モード：1280（130 万画素）モード
デジタルズーム
・オートブラケット撮影では、フラッシュは発光しません。
・オートブラケットの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.102「カメラの設定内容を記憶する」

マクロ撮影のしかた（接写）

被写体に近づいてクローズアップで撮影することをマクロ撮影といいます。レンズをもっとも広角側にしたとき、約 4 cm まで自動的にマクロ撮影できます。レンズがこれ以外のときは、約 40cm まで自動的にマクロ撮影できます。

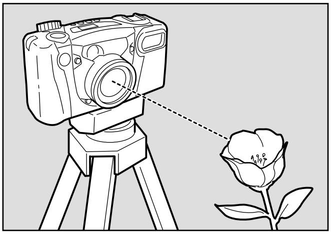
補足
・被写体をより大きく撮影したい場合は、フォーカスモードの SP🌷で被写体に近づいて撮影ください。→ P.61「フォーカスモードで撮影する」

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせます。



❷ 被写体に近づいて構図を決め、シャッターボタンを軽く押してピントを合わせます。

❸ シャッターボタンを押して撮影します。



重要
・マクロ撮影ではピント合わせの範囲がせまいため、カメラが動くとピントが外れることがあります。カメラが動かないように、三脚などでしっかりとカメラを固定して撮影してください。
・フラッシュ撮影すると、フラッシュの光が赤く写ることがあります。また、露出オーバーになるので白っぽくなることがあります。
・ファインダーでの視野と撮影される範囲が大きくずれますので、液晶モニターまたはカメラをテレビに接続して、撮影範囲を確認しながら撮影してください。

コラム

マクロ撮影の範囲について

被写体までの距離が約 4 cm（もっとも広角側）～約 40cm の間は、マクロ領域になります。

シャッターボタンについて

三脚などでカメラを固定したためシャッターボタンが押しにくいときは、リモートコントローラー（別売り）を使用すると便利です。